



古い搗き臼（上臼にてきぎをつけて、相互にひく。）



そば搗き（臼と杵、もんべばき、はんでんふたはば手ぬぐい）（41.12.27）

この餅を婚礼の晩に嫁に搗かせてみたり、神に供える餅をけがすまいとして口に白紙をくわえて搗いたり、また一升餅を食べるなどといって、餅の大食競争をやったりする風もある。神

ごとの日、講ごとなどにも、米を持寄って、餅をついて、神にも供え、自分たちも分けて食べるところに、やはり神に通じる偉力を認めていたものと思う。

搗く臼にはあまり変化はないが、古くは千本杵などが用いられていたらしい。稀に千本杵などを保存している家などもある。近年都市では電気ですく方法などもできて、餅搗きという、目出たいような杵の音も、遠のき始めている。

餅には菱餅のように形を変えるものもあれば、上にぬるもの、雑煮餅のようなものもあるし、搗く時大豆、粟